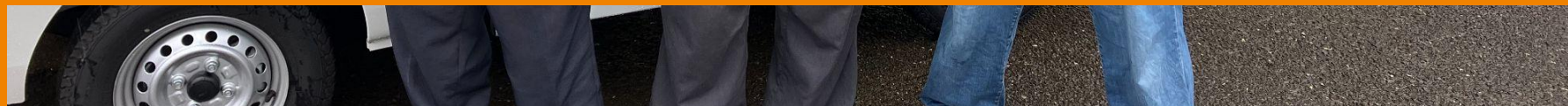




第34回社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」
in 茨城県かすみがうら市



Agenda

01. クラダシチャレンジとは
02. 7日間のスケジュール
03. 活動報告
04. 参加者の声
05. 事後報告会

Agenda

01. クラダシチャレンジとは
02. 7日間のスケジュール
03. 活動報告
04. 参加者の声
05. 事後報告会

● 01. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

フードロス問題や地方創生に興味関心のある学生が日本全国の地域・農家へインターンとして訪れ、作物の収穫支援や現地での交流を通して一次産業や地域経済の活性化について考える取り組みです。

参加学生の旅費・交通費や現地での滞在費、食費等は、地域経済の活性化と社会発展に寄与するために設立した「**クラダシ基金**」から支援しています。

クラダシチャレンジ実施の目的

活動中：収穫したものをKuradashiのサイト上で販売することで、新たな収益を生み出し、経済面で地方・農家を支えます。さらに、学生が現地を訪れることで町に活気をもたらし、地域の魅力をSNS等で発信することでさらなる発展のパワーに繋がります。

活動後：学生が自治体や農家の方1人1人の温かみに触れ、地方・農業の魅力を体感することで、将来のキャリア選択を通して地域に貢献しようという意識が芽生えます。

01. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

地域経済の活性化と社会発展に寄与するために
設立された支援金制度「クラダシ基金」



地方創生事業・フードバンク支援事業・教育事業・
食のサステナビリティ研究会の社会貢献活動に充てられます。

クラダシ基金とは

クラダシ自らが社会貢献活動を行うために創設した基金で、ソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」上における支援先の1つです。

地域創生事業やフードバンク支援事業、教育事業、食のサステナビリティ研究会の社会貢献活動に活用しています。

クラチャレの運営費も、本基金から拠出されています。

▼参考URL

クラダシ基金について

: <https://www.kuradashi.jp/fund>

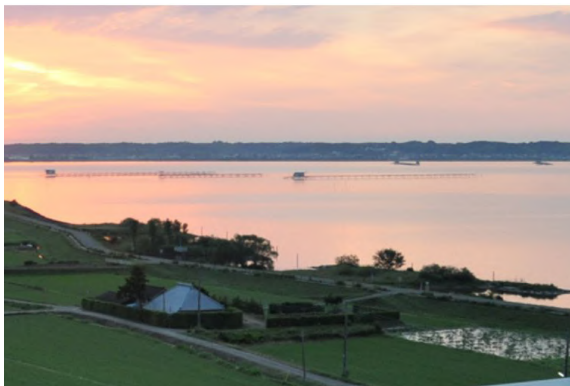
● 01. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

第34回 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」 in 茨城県かすみがうら市

- 活動内容：
 - ①ベビーリーフや有機野菜の収穫、加工
 - ②現地の方との意見交換
 - ③現地観光
 - ④SNS等を利用した地方の魅力発信
- 開催期間：2023年11月7日～11月13日
- 参加人数：3人
- 実施企業：株式会社クラダシ（クラダシ基金にて運営）

01. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

【かすみがうら市とは？】



かすみがうら市は、東京へ約70km、水戸市へ約30km、つくば市へ約10kmの距離に位置しています。西に「雪入山」、東に国内2位の面積を誇る湖「霞ヶ浦」を持ち、山と湖の大自然に囲まれた美しいまちです。温暖な気候に恵まれ、梨・ぶどう・栗・柿・イチゴなどの観光果樹園が盛んで果物狩りにたくさんの方々が訪れます。明治13年に折本良平氏が考案した風力による漁船「帆引き船」発祥の地でもあります。

【仁木町クラチャレ開催の背景】



クラダシは2021年7月に、茨城県とフードロス削減に向けた連携協定を締結いたしました。

▼茨城県が現在取り組んでいるフードロス対策 ※[参照](#)

- ・いばらきフードロス削減プロジェクト

▼かすみがうら市が現在取り組んでいるフードロス対策

- ・「大学生による未収穫果樹の収穫体験・活用検討」プロジェクト ※[参照](#)
- ・「フードロス削減」をテーマにした「梨ピューレ」のプロモーション活動を行うインターンを実施 ※[参照](#)

● 01. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

第34回社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」 in茨城県かすみがうら市のテーマ

▼テーマ

HATAKEカンパニーで発生するフードロスをどうしたら削減できるか

▼参加者の皆さんに考えてほしいこと

HATAKEカンパニーで発生しているフードロスを削減する案

▼まとめる際に必要な視点

- そもそも農園内でどういうロスが、なぜ発生しているのか
- いくつもの案が出た中でなぜその案を提案したのか
- 自治体を巻き込んで何ができるか（自治体と一緒にやるからこそ、自治体という立場だからこそできることはなにか）
 - └ 茨城県やかすみがうら市が現在、実際に取り組んでいるフードロス削減対策と連携できることは何かないか
 - └ フルーツ隊と一緒にできることはなにか、活かせるようなことがないか
- 農家さんにとってのメリット、取り組むにあたる課題とそれに対する解決策、効果はなにか

Agenda

01. クラダシチャレンジとは
- 02. 7日間のスケジュール**
03. 活動報告
04. 参加者の声
05. 事後報告会

02. 7日間のスケジュール

	11/7(火)	11/8(水)	11/9(木)	11/10(金)	11/11(土)	11/12(日)	11/13(月)			
7:00		朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食			
8:00		肥料まき	ベビーリーフの選別、袋詰め	堆肥場の見学	観光サイクリング (古墳、柿狩り)	野菜販売				
9:00	移動									意見交換会
10:00										
11:00		昼食	昼食	昼食		昼食	昼食			
12:00		ベビーリーフの収穫(機械、手狩り)	ベビーリーフの選別、袋詰め	ラディッシュの収穫、洗浄、選別、袋詰め	観光サイクリング (古墳、柿狩り)	加工作業				
13:00	概要説明、質疑応答									移動
14:00										
15:00			梨ピューレ試食会							
16:00										
17:00	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食				
18:00										
19:00										

Agenda

01. クラダシチャレンジとは
02. 7日間のスケジュール
- 03. 活動報告**
04. 参加者の声
05. 事後報告会

03. 活動報告：作業①～土づくり

作業は土づくりから始まります。農機の盗難が頻発しているということに驚きました。肥料を撒くためには農機を使うのですが、私たちが訪れる前に肥料散布用の農機が盗まれてしまったため、肥料を肥料置き場からスコップですくい、軽トラに載せて、圃場に運ぶところからスタートしました。

圃場に運ぶ道中、ぬかるんだ道を軽トラで走るためスタックしてしまうことも日常茶飯事だと話すHATAKEカンパニーの木村社長。我々の圃場体験においても軽トラはスタックしてしまい、みんなで軽トラを押ししました。

やっと肥料を積んだ軽トラをビニールハウス内にいれることができ、ようやく肥料散布スタート。スコップで軽トラに積まれた肥料をすくい、足腰を使って野球のスイングのようフォームで、腰を落として回し、肥料を一箇所に集中させないように注意しながら散布しました。



03. 活動報告：作業②～収穫

芝刈り機のような収穫機械を使い収穫、はかりで計量、個票と呼ばれるラベルづけをしてカゴに収納し、冷蔵車（トラック）につめていく。これらを通常3人で分担し、流れ作業で行います。

我々もこの流れ作業に参加させていただき、スピード感を持ちながらも商品となるベビーリーフを潰さないよう優しく作業を行いました。

ビニールハウス内はかなり高温で蒸し暑く、11月にも関わらず非常に暑かったです。夏はかなり体力的に大変な作業になるだろうと感じました。

普段は機械を使って流れ作業で収穫を行います。我々は段ボールカッターのようなナイフで1つ1つ収穫する手刈りも体験させていただきました。商品にするためには、葉っぱを含めた長さや切る場所に注意しなければならなかったため、枝分かれや根がついたものが出ないように収穫することに苦戦しました。頭では理解できても、実際の作業と頭の理解にズレが生じることが多く、コツをつかむまで時間を要しました。



03. 活動報告：作業③～加工

収穫したベビーリーフをつくば市の工場で加工を行いました。
加工場での作業内容としては、主に以下の3つが挙げられます。

- ・ベビーリーフの選別（商品として適性か、虫がついていないかなど）
- ・袋詰め作業
- ・ラベル作り

加工場ではベトナム実習生や障害を持っている方も多く働いていました。実習生は労働意欲が高く、定常的にシフトに入るため、安定的な労働力確保ができて助かっているとhHATAKEカンパニーの社長から伺いました。単純なライン作業は雇用の創出にも繋がると学びました。障がい者の方の家族が見学を訪れた際に、実際に障がいを持ちながらも働いている姿を見た家族から感謝されたこともあるとのこともお話も聞かせていただきました。長期的には、子どもを預ける施設や住居などを作り、従業員が働きやすい環境づくりを目指しているそうです。

農作業だけではなく、作業に関わる人のことまで広く考える必要があることは、実際に現地に行って働いている人を見なければ発見できなかったことだと感じました。



03. 活動報告：作業④～販売

加工したベビーリーフの販売を行いました。販売はかすみがうら市のキャンプ場で、遊びに来ていたお客さんを対象に実施しました。小雨の中ではありませんでしたが、我々参加者各々が学んだ知識や自分たちの取り組みを一人ひとり自分の言葉でお客さんに伝えながら販売しました。

クラダシ社員の塩出さん、山口さんからアドバイスをいただきながら、ベビーリーフを使ったメニューを説明に交えるなど試行錯誤。

かすみがうら市の石川さんには、我々のために販売できる場所を探してアポ取りをしていただくなど沢山の力添えをいただきました。

皆様のおかげで市内数カ所を周り、最終的に40袋近くの商品を売ることができました。



03. 活動報告：意見交換会

市長はじめ、市の職員の皆さま、地域協力隊の皆様に、1週間感じたことを発表し、かすみがうら市への疑問を質問させていただきました。その後、フードロス削減達成のためにグループディスカッションもおこないました。実際にサイクリング体験やゲストハウスを見学をする中で、個人的には霞ヶ浦には非常に良い観光資源があることや、ソロキャンプなどのブームがあることなどから、今後、霞ヶ浦により多くの人を招き入れることができるのではないか？と考えていました。

現状、かすみがうら市には団体を受け入れ可能な観光は果樹観光と比べて少ないということ、安田農園の安田さんから伺ったので、

- ・団体を受け入れる準備をすればより観光産業が活発化するのではないか？
- ・かすみがうらツーリズムに対して市長はどう考えているのか？

と市長に質問したところ、答えとしては、「量より質、だからこそ都会の喧騒を離れてくる意義が生まれ、体験価値向上する。そこがかすみがうらの良さである」との答えをいただきました。

確かに量を追い求めるがあまり、質を毀損する恐れがあると理解が深まりました。また、芸術専攻の筑波大学院生と交流でき、農園×芸術という分野という我々にとって未知の分野で頑張っている方々と交流できたのは非常に刺激的でした。

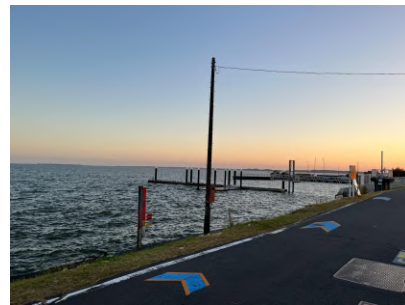


03. 活動報告：観光

・湖岸から果樹農園までのサイクリング
サイクリングというミクロな視点でかすみがうら市を回することで、新たな気付きを得ました。湖岸のサイクリングロードは非常に走りやすい環境で、風を感じながらのサイクリングは非常に快適でした。時折、対面から同じくサイクリングをしている方たちとすれ違う中で挨拶を交わすことが多々あり、サイクリストとの交流も楽しいと感じました。

・古墳見学
茨城には古墳や古墳から出土された国宝などが非常に多いことを改めて知ることができました。
かすみがうら市歴史博物館には、期間限定の国宝展示がされていてとても魅力的でした。

・果樹観光(柿)
かすみがうらでは、柿・ブドウ・栗・梨など一年を通して果樹観光ができるのが魅力です。今回の時期は柿狩りを安田農園さんで体験しました。安田農園の安田さんとお話する中で、現状、団体が来る観光は果樹観光と比べて少なく、キャパシティ・食事・宿泊施設の問題があることなどを知ることができました。



Agenda

01. クラダシチャレンジとは
02. 7日間のスケジュール
03. 活動報告
- 04. 参加者の声**
05. 事後報告会

04. 参加者の声①

フードロスの考え方の変化について

自分がファミレスでバイトをしていた際に廃棄ロスを目の当たりにしたことから漠然と社会貢献に関わりたいという考えがあり、クラダシチャレンジ参加させて頂きました。

しかし、フードロスは生産から加工の段階でも発生するのだとを身を持って感じ、問題を俯瞰的に見る必要性があると感じました。

その中で印象的であったのが、イノベティブな考えとコストに関して整合性をいかに保つかという事です。食材を加工して廃棄を減らせるようにするという考えが先行してしまうあまり、コストに関して見落とししていたことがあったからです。

廃棄される予定のベビーリーフを粉末にして活用するという案が頭をよぎりました。しかし、機械分のコストを利益で回収することは難しいというお話を伺いました。私自身は、その地域で活用出来る資源を上手く生かすことでコストを減らしつつ、イノベティブな発想をすることがフードロス削減や地方創生を成功させる鍵になると考えます。



【武蔵野大学経営学部3年 高林大翔】

04. 参加者の声②

多くの方と関われる貴重な体験！

クラチャレに参加する中で、多くの関係者の方と関わり、たくさんの驚きがありました。それぞれが異なる背景をもっており、フードロス削減や地方創生のために力を合わせているのだなと感じました。

HATAKEカンパニーでは、農業を法人化した木村社長の貴重なお話を聞きました。かすみがうら市職員の方々からは、かすみがうら市を盛り上げようという勢いを感じました。クラダシの社員の方々からは、ビジネスを成立させるための明晰さを学びました。今後は、仕事などで課題を解決する機会が増えると思いますが、自分の意見だけで解決するのではなく、様々なバックグラウンドを持つ方の意見を聞いていきたいと思っています。



【北海道大学3年 浦田翔吾】

04. 参加者の声③

広い視野を求めて飽くなきインプットを

フードロス削減と一口に言っても関係する問題が様々あり、何かをひとつ変えれば終わりという話ではないということをもっと学ぶことができました。ベビーリーフのロスを削減するためには、それらを加工して粉末化すれば良いと思ったが、機械の導入費用と天秤にかけた時に回収できるかどうか、機械の設備投資費用だけでなくその場で働く従業員の定常的な人件費など、関係するヒトやコトを広く考える視野の広さが必要だと学びました。その中で「梨ピューレ」の事例から、商品販売単価の高さなど、課題はあるものの、機械導入などお金をかけなくても、身の回りにあるリソースを活用して、フードロス削減に貢献できる例を目の当たりにし、フードロス問題はじめ、様々な困難には地域のもつ地力、「地域資本力」のようなものを鍛えることで問題にタックルできると気づかされました。

「フードロス」と一口に言っても、関係する問題が様々あり、何かをひとつ変えれば終わりという話ではないという学びから、広い視野で包括的に物事を見ることができるようになりたいと強く思いました。今回、自分を生かすことができたと思った瞬間は、教育に関する新書で出てくる「生産-消費」構造で語られる内容をフードロスの話題にも応用できた点だと思います。細やかながらこの経験は読書で携えた、自分が持つ世の中を見る方法を生かすことができた経験だと思っていて、読書や今回のように実地に赴いて参加する体験などを通してインプットを増やし続け、広い視野で包括的に物事を見ることができるようになる訓練をこれからも積んでいきたいと思っています。



【北海道大学3年 郡谷 卓大】

Agenda

01. クラダシチャレンジとは
02. 7日間のスケジュール
03. 活動報告
04. 参加者の声
- 05. 事後報告会**

05. 事後報告会

第34回/35回/36回社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」 in 長野県松本市、茨城県かすみがうら市、愛媛県宇和島市のクラチャレ参加者による合同事後報告会を行いました。

■日時：2023年12月26日 13:00-15:00

■場所：クラダシオフィス・オンライン配信

■参加者：「クラダシチャレンジ in 茨城県かすみがうら市」参加学生
「クラダシチャレンジ in 長野県松本市」参加学生
「クラダシチャレンジ in 愛媛県宇和島市」参加学生
かすみがうら市の方々
松本市
宇和島市の方々
クラダシ社員

■目的：参加した学生が、現地の方との交流・収穫支援の活動を通して見出した課題への解決策を提案する。



● クラダシについて

社名	株式会社クラダシ
設立	2014年7月
所在地	東京都品川区上大崎3丁目2-1 目黒センタービル 5F
代表者	代表取締役社長 関藤 竜也
事業内容	ソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」の運営
URL	https://www.kuradashi.jp/ (ショッピングサイト) https://corp.kuradashi.jp/ (会社HP)

株式会社クラダシは、かすみがうら市以外の自治体でも支援を引き続き行なってまいります。
ご質問・ご相談等ありましたら、お気軽にお問い合わせください。

次のページから、
事後報告会で学生が発表したスライドを紹介します！

● かすみがうら市の課題発見・解決策立案

かすみがうら市の地域課題

かすみがうらの観光を盛り上げるためには

かすみがうら市観光の現状

かすみがうら市の主な観光資源は果樹園であり、霞ヶ浦周辺は観光客が少ない。その理由として、霞ヶ浦周辺には大人数が入ることのできる飲食店や宿泊施設がないことが挙げられる。かすみがうら市や地域おこし協力隊によって古民家再生が行われており、以後の盛り上がり期待できる。

なぜその課題を選んだのか？

かすみがうらには果樹園や古墳、霞ヶ浦などと観光資源が豊富である。特に霞ヶ浦ではサイクリングロードが整備されていたり、満点の星空を眺めることもできる。また、かすみがうら市には地域を盛り上げようという方が多く、人的資源も豊富だと感じた。一方でこの観光資源を活かしきれていないと感じたため、この課題を選出した。

● かすみがうら市の課題発見・解決策立案

現地で感じた印象・現地の声

果樹園を経営する方からかすみがうら観光についての現状をお聞きした。霞ヶ浦周辺には大人数の観光客を受け入れるキャパシティがないこと、一度コロナ禍で閉店してしまった観光施設を営むお店が再稼働するには大変な労力がかかることを聞いた。また、かすみがうら市長のお話では、霞ヶ浦を観光地化しすぎると住民にとって住みづらい街になってしまうとおっしゃっていた。観光地としての魅力と、住民の住みやすさのバランスが重要だと感じた。

目指すべき方向性

かすみがうらを住み心地のよい街に保ちつつ、観光地としての魅力を向上させる。また、移住してくる人口を増やす。

解決策立案

市外から来る観光客向けのかすみがうらツアーを行う。それにあたって、かすみがうら市や地域おこし協力隊の協力を頂き、かすみがうら市の良さをアピールする。また、梨ピューレなどフードロス問題への取り組みや、古民家再生についても知ってもらう。

● 観光ツアー案

朝～昼 霞ヶ浦サイクリング！

- ・富士見塚古墳 春には満開の桜が見れます！
- ・果樹園観光！年中フルーツが採れます！



お昼ご飯

歩崎公園で茨城県産の有機野菜を食べた料理を
ふるまい！

おいしい茨城の野菜を味わってもらいましょう！



その後は帆引き船見学！息を飲むようなダイナミックな
帆引き船を見ていただきましょう！



● 観光ツアー案

その後、梨ピューレを使った料理を食べながら、地域おこし協力隊の片やかすみがうら市職員の方から市の魅力についてアピールいただきます！移住制度の説明や、参加者からの質疑応答！

夕方からは江口屋に宿泊！焚火を囲みながらご飯を食べ、綺麗な夜空を眺めましょう。

翌日は江口屋で朝食を食べた後、バスでかいつかかすみがうら本店に向かいます！美味しい焼き芋を食べて、帰路につきましょう。

